令和８年度第１回岡山市経済政策審議会における主要な意見

１　日　時　令和 8 年 7 月 29 日（水曜日）午後 2 時～午後 4 時

２　場　所　岡山市役所議会棟 3 階　第 1 会議室

３　出席者　委員 8 名

４　傍聴者　報道 0 名、傍聴者 0 名

５　議　題

各アクションプラン　令和8年度の取り組みについて

（１）産業振興アクションプランについて

（２）観光・MICE アクションプランについて

（３）農林水産振興アクションプランについて

６　主要な意見

（１）産業振興アクションプランについて

・企業立地推進事業について、地元の理解を得ることが課題となることがあるが、地元の話をしっかり聞くことから始めれば、問題も解決していく。

・岡山県で、新規に工場を展開したいと思うような工業団地が全く空いておらず、有名な企業が県外に流出していると聞いている。岡山県は広島県や山口県に比べるとはるかに広い平野がある県なので、その気になれば整備できるのではないか。製造業の場合は、アクセス、道路、電力が必須であり、ＩＴ関係の通信環境、広い面積の土地、働く人たちの生きていくための関連設備が必要になるため、ある程度広い団地がよい。

・岡山は交通の便がよく、産業の潜在力はある。従来の工業はそのまま発展させると同時に、工業団地型ではない産業の転換も想定した政策立案があってもいいのではないか。

・外貨を稼ぐために魅力ある企業誘致をすることにもっと注力し、お金も使っていただきたい。

・表町商店街は、平日にインバウンドの方がかなり増えた。インバウンド観光客の方は写真を撮って町歩きを楽しんでいるようなので、今後そういうことで商店街の歩行者が増えることも期待できる

・企業では、人材不足、採用を非常に問題視している。市の雇用対策等事業について、参加した人の内定率が高ければ効果が感じられるが「参加者数」は指標として妥当なのか。今後は集合型の合同企業説明会ではない形を取られるのかと思うが、せっかくの事業な

ので採用につがなるよう願う。

・最近は、就職説明会に学生がほとんど来てくれない。特に大企業等がウェブで早期に採用活動をして、早い段階で決まってしまい、中小企業が協定で採用活動を始める頃には、もう終わっているということで、従来の採用戦略は全然役に立たなくなったと聞いてる。

・大学生の中には、就職活動になかなか動かない者も一定数いる。その学生たちが、何かのきっかけで企業と触れ合う場所を作ることも、今後必要になるのではないか。

・市内の中小企業で人手不足が発生している一方、企業を誘致する、という相反する事業について、お互いの事業を補完する形で事業を組み立てるというのもひとつのやり方。

（２）観光・MICE アクションプランについて

・「新たな倭国論」の普及活用事業は、壮大だ。素晴らしいロマンがあり、宇喜多秀家のことも含め、市民が知ったら本当にわくわくすると思う。新しい岡山の発見の糸口をはかる一つの取組として、大賛成。力の要る事業だと思うが、本当に魅力のある岡山だと思うので頑張っていただきたい。

・観光客に、バーチャル映像で当時の吉備の国の地理や情景（生活、農業、戦）を見ていただくことができれば、新しい観光の在り方としてよいと思う。

・こうもり塚古墳は奈良の石舞台古墳と同程度の石の規模であり、最大級の古墳（造山古墳）もある。吉備王国が滅ぼされたというよりも、それらを作った頃の吉備王国の隆盛のイメージをアピールするストーリーを伝えてはどうか。

・国内観光客は、インバウンドが飛躍的に伸びてきている。首都圏とか大都市中心だったのが、地方都市にも波及してきている状況。岡山も県南を中心に増えており、先行的に進んでいるのが玉野市で、直島に行く方々がたくさん来ている。この流れを岡山で活かすには、プランの方向性やストーリー性のある観光コンテンツの創出が重要。岡山県観光連盟では、県内各市町村と連携して、付加価値が高い観光コンテンツをつくることを目標にしている。県内周遊をしっかりして、県内で消費を呼び起こすような、ナイトタイムエコノミーや朝メニューの充実などいろいろなところで連携させていただきたい。

・岡山市はマラソンやサッカー、バスケットボール等のチームがあり、スポーツに結構力を入れている。サッカーはＪ１に上がって他市・他県からたくさんの人がくるので、日本遺産などのチラシをそういう場で配るだけでもプロモーション効果があると思う。

・ファジアーノは試合の開催頻度も高く県内外からの集客力も大きい。マラソンも市外から多く来られているので、もう少し積極的に関わることで、広域観光にもつながるきっかけになるのではないか。

（３）農林水産振興アクションプランについて

・「食と農の魅力発信事業」や「食と農業に関するワークショップ」は、例えば北前船の歴史と郷土食など観光と組み合わせたことをやれば、観光も農業も発展して面白いのではないか。

・農地の川掃除は、重労働で負担が大きい。就農者も減ってきて、参加してくれる人が中々おらず、高齢化とともに難しくなってきたが、市役所から専門の業者に依頼して実施する方式に変更できないだろうか。

・川掃除や町内の掃除は、就労継続支援Ａ型事業所でも受けたりしている。就労継続支援事業所では、企業などからの仕事が減っている。企業での施設外就労がない場合は、内職や農作物栽培の作業などで収益を得てやっているが、川掃除や町内の春秋のお掃除なども周りの事業所に声を掛けたら、福祉も充実するのではないかと思う。

・町内の溝掃除も同様に、高齢化のために参加者が減ってきている。日本の農業も同じで高齢化の問題がある。最大の問題は後継者がいなくて小規模農地は放棄せざるを得なくなっていて、農地を集積化・大規模化してかなければならないという問題がある。

・企業の経営者は 10 年後のビジョンを見通して、５年後の中・長期ビジョンを作成し、年度計画を立てている。岡山市も長期的な視点を持って、10 年後の状況に今から手を打っていけるものがあるのではないか。

（１）～（３）全体について

・各アクションプランについて、目標値が金額ではないところがある。ＧＤＰという面で、それぞれの分野の付加価値額を把握することが一番ベースになるのではないか。付加価値は人が働いて生み出したものなので、管理すべき指標として産業・観光・農業各分野で、目標として付加価値等の数字で掲げるべきではないか。

・熊本県では、TSMC の進出により、半導体と関連性の高い企業なども進出し、投資額が兆単位になっている。儲かる核となる仕事を誘致することが人口減少に一番効く。

・人材・人手不足については、隣県等と各分野で協力する「お互いさま連携」として一緒にやっていけるものが何かあればよいのでは。

・日本のどの地域でも人手不足となる中、外国人の方も多く働いている。製造業や農業に外国人の方は必要であり、働きに来ている外国人の方をターゲットにした事業をアクションプランに入れてはどうか。

・市の政策は、市と施策対象の地元の方や関係団体との意見交換や連携を密にすることによりスムーズに実行されていると感じるので、今後もそうしていただきたい。